

第3回 能登半島絶景海道の 創造的復興に向けた検討会

- (1) 創造的復興に向けた取り組み
 - ①寄り道パーキングなどの利活用の検討
 - ②サイクルツーリズムの取り組み
 - ③風景街道の創出に向けた多様な主体との連携
 - ④アドバイザーによる現地視察

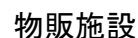
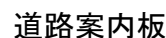
令和7年7月31日

①寄り道パーキングなどの利活用の検討

【寄り道パーキングとは】

＜整備事例＞

- ・魅力的な風景が広がる沿道に小規模な駐車スペースを整備
- ・周辺観光情報を盛り込んだ道路案内板の設置
(地元が運営する物販施設が併設される場合もある)



(1)創造的復興に向けた取り組み

②サイクルツーリズムの取り組み

【これまでの取り組み】

- ・ ナショナルサイクルルート指定を目指し、矢羽根型路面表示の設置などの通行空間の整備
- ・ サイクルラック設置などの受入環境の整備
- ・ フォトコンテストやスタンプラリーのイベント実施



国道249号 輪島市町野町大川

通行空間の整備(矢羽根型路面表示)

災害復旧の合わせ整備予定



イカの駅つくモール

受入環境の整備(サイクルラック)

施設の状況確認予定



ykmt13

フォトコンテスト(R4受賞作品)

規模縮小しながら実施中

【今後の取り組み】

- ・ 創造的復興に向け、自転車の通行空間や受入環境の整備について、利用者の意見を聞くため、試験走行を通じたニーズ調査を実施予定

(1)創造的復興に向けた取り組み

①寄り道パーキングなどの利活用の検討

新たな絶景スポットやメモリアルパーツ(震災遺構)について、復旧工事に合わせて寄り道パーキング等の整備を行い、周遊観光の促進につなげます。

【考えられるスポット】

- ・ 地震により隆起した海岸
- ・ メモリアルパーツの保存場所
- ・ 能登絶景スポット

【整備の工夫】

- ・ 旧道の活用
- ・ 仮設道路の活用
- ・ 復旧工事にて整備したヤードの活用



新たなパーキング等の整備イメージ

(1)創造的復興に向けた取り組み

②サイクルツーリズムの取り組み

ナショナルサイクルルート of 指定を目指し、復旧・復興工事の現場条件に合わせ、幅広い路肩を活用した自転車通行空間確保など、様々な自転車の通行幅員や快適な走行環境を検討します。

1. 自転車歩行者専用道路等の自転車通行空間

東日本大震災の被災地では、震災遺構や伝承施設等を巡るルート「震災復興・伝承みやぎルート」や復興サイクリングロード「いわき七浜海道」が整備されています。



「震災復興・伝承みやぎルート」に整備された
自転車歩行者専用道路(仙台亘理自転車道線)



防潮堤に整備された自転車通行空間(いわき七浜海道)
(写真:いわき市)

2. 車線内の路面表示による

自転車通行空間

道路再配分による自転車通行空間の検討。



志賀町での整備事例

3. 路肩を活用した自転車通行空間

災害時にも通行可能な幅広路肩を
平時利用として、自転車通行空間の検討。



加賀温泉駅前での整備事例

(1) 創造的復興に向けた取り組み

③ 風景街道の創出に向けた多様な主体との連携

自治体や「道の駅」、道路協力団体・地域活動団体など、能登半島で活動する多様な主体と連携し、風景街道の創出に向けた取り組みを推進します。



奥能登岬みちづくり協議会（珠洲市）活動の様子
（写真：奥能登岬みちづくり協議会）

【新たな風景街道創出エリア案】



(1)創造的復興に向けた取り組み

④アドバイザーによる現地視察

令和7年7月3日（木）～4日（金）にかけて、本検討会のアドバイザーであるNPO法人日本風景街道コミュニティ 石田東生 代表理事による能登半島絶景海道想定エリアの現地視察を行いました。



石田東生先生による現地視察の様子（石田東生先生：右側写真右から2人目）

【石田東生 代表理事からのアドバイス】

- ・ 道路の本復旧で自転車通行帯やビューポイントなどを入れていくため、検討会で必要性を定義づけして絶景海道の復興メニューに入れていくべき。
- ・ 風景街道の活動やルート拡大には市町の観光部局とともに活動団体を見つけ、オリジナルのストーリーを巡るという仕掛けが大切。
- ・ 以前よりも良い道路に復旧する「Build back better」をぜひ能登半島地震の復旧復興で進めてほしい。

今後、アドバイザーを交えた意見交換等を予定。